令和８年度　竹田教育事務所　実践事例の紹介

心理的安全性を育む学校づくり

竹田市立緑ヶ丘中学校（生徒数：60名）

「ポジGo（やさしい言葉・リフレーミング）」を活用した実践①

『ポジGo』とは…「やさしい言葉を使っていれば心も周りもやさしくなる」という考えのもと肯定的な表現やほめる指導の推進より提唱された、ポジティブな「語」：言葉、「Go」：行動・前進という意味をかけ合わせた造語。

緑ヶ丘中学校　スローガン『　緑中は一つ　』

【教育目標】夢を持ち　未来を創造する生徒の育成
～自ら考え、伝え合う力で未来を拓く～

小学校からの取組を土台として継承し、生徒一人ひとりが失敗を恐れず、安心して自分の考えや意見を発表できる環境(心理的安全性)を全校生徒・教職員・家庭が一つとなってつくり上げる。

Point 1　教育目標における「3つの重点目標」

【基礎基本の定着】	【表現力の育成】	【安心して話せる学級づくり】
◆緑中スタンダードの徹底 ：明確なめあてと振り返りのある授業の徹底、単元計画の共有(楽しくて力のつく授業づくり) ◆個別指導の充実 ：補充学習等きめ細かな指導 ◆数学・英語の基礎学習推進 ：タブレット活用	◆新聞コラム学習の推進 ：読解力の向上 ◆考える場の設定 ：自分の考えを構築する時間の確保 ◆伝える場の設定 ：ペア対話・グループ対話等により、自らの考えを発信	◆人間関係づくりプログラム ：週１回短時間(15分間)と月１回のロング(50分間)を実施 ：全校共通ルールの実践「うなづく・笑顔で聴く・否定しない」 ：「このクラスなら失敗しても大丈夫」と思える集団づくり

Point 2　「ポジGo」：言葉選び＋相手を思いやる姿勢・行動

【背景とねらい】	【言葉・姿勢・話し方】
◆生徒の実態 ：「正解を求めたがる」 「失敗を恐れる」 「すぐ諦める」 等の課題に対応 ◆思考の工夫 ：ポジティブな言葉がけや、視点を変える 「リフレーミング」を活用	◆言葉そのものが優しい ◆リフレーミングの視点 ◆非言語コミュニケーション・態度 ◆話し方の工夫

Point 3　具体的実践＆達成目標値（生徒アンケート）

学校全体での取組内容	生徒アンケート
◆月１回の学級会 ：学校生活のルール、言葉づかい等の確認 ◆「緑中タイム」 ：人間関係づくりプログラム実施 ◆校内研修や職員会議等 ：共通理解や「ポジGo」を意識した言葉がけ ◆保護者や地域への周知 ：学校だより等での発信による共通した言葉がけ	◆達成指標 ・授業中、安心して意見を言うことができる 生徒 ※肯定的回答 70％以上 →１学期末評価94％



教師は子どもたちに声をかける際、常に「ポジGo」を心がける。

「リフレーミング」の意識として、失敗や欠点を別の視点から見つめ直させ、前向きな解釈へと導く。

イメージキャラクターによる視覚化
～生徒自身が自分の感情と行動を客観視しやすいように工夫～

※イラストは省略

「ポジGon」
生徒の心の中にある…
「いいね！」
「ファイト！」
「ありがとう！」といった
前向きな姿勢を表す、
マスコットキャラクター

「ネガGon」
生徒の心の中にある…
「めんどくさい」
「どうせ無理」
「やる気出ない」といった
否定的な感情を表す、
マスコットキャラクター

ポジ Go とは(3つの柱)

一部抜粋

1　言葉そのものが優しい・前向き
相手が言われて「気持ちが明るくなる」「安心する」言葉のこと。
短い一言でも、場の空気を変える力がある。

【例】
・いいね　・がんばってるね
・その考えおもしろい　・ありがとう
・助かるよ　・なるほど
・そのやり方いいね　・わかりやすいよ

【ポイント】
・“評価”より“承認”
・“結果”より“過程”
・“正解”より“挑戦”
を大切にする言葉。

「ポジGo」の定義
～教職員で共有～

令和８年度　竹田教育事務所　実践事例の紹介

心理的安全性を育む学校づくり

竹田市立緑ヶ丘中学校（生徒数：60名）

「ポジGo（やさしい言葉・リフレーミング）」を活用した実践②

- ✅安心して意見を伝えられる生徒の増加
- ✅相手の考えを受け入れる態度の育成
- ✅生徒同士が互いを認め合う風土の醸成
- ✅自己肯定感や所属感の向上
- ✅心理的安全性の高い学校づくりの推進

1．言葉で守る
「ポジGo」で失敗への不安を取り除く

2．仕組みでつなぐ
他者との絆を深める

3．全員で挑む
「安心」という土台の上で、
質の高い学び・教育に組織全体で向かう

Point 3-① 学校全体での取組内容

人間関係づくりプログラムの実践より

緑中タイム～ポジGoとの出会い～
「ポジGo」マスタープログラム（15分×４回）

第１回：ポジGoとの出会い
～言葉のエネルギーを感じよう～
第２回：心のブレーキを外す
～「めんどくさい」の翻訳大喜利～
第３回：相手を笑顔にする魔法
～「名前＋ポジGo」シャワー～
第４回：ピンチを救うヒーローになろう
～アクション・ポジGo！～



～生徒の振り返りより～
ポジGo変換のゲームに取り組んだ。ぱっと出てこなかったけど日頃から意識したいと感じた。今日みたいな時間を少しずつ積み重ねて、普段から取り組めていけばきっと気持ちよく過ごせると思う。

Point 3-② リーダーシップから始まる環境づくり

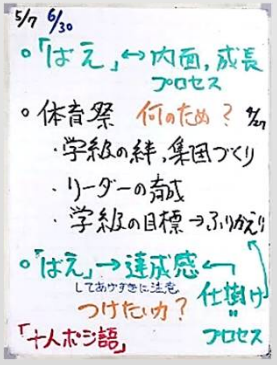
教職員自身の心理的安全性を担保する

校長自ら、ホワイトボード等を用いて教職員へ「ポジGo」の声かけを実践。

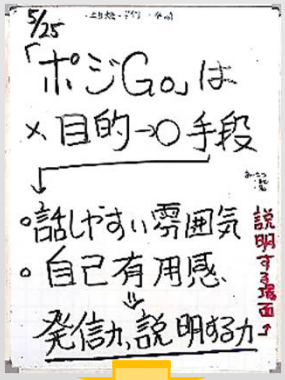


～校長より～
発信したい内容をホワイトボードを使って「見える化」し、提示している。
伝わる工夫：「何をするか」を明確にし、分かりやすく伝える。
全員での実践：教職員全員で同じ取組を進める。
意識化の推進：日々の継続的な発言により、教職員自身の意識改革につなげる。

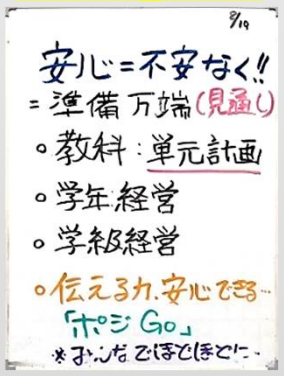
体育祭前（５月）
職員朝会（６月）



職員朝会（５月）



２学期始業式前（８月）



こうした分かりやすい発信を通じて、教職員の安心感を高め、生徒への「ポジGo」の波及効果をさらに高めている。

Point 3-③ 家庭・地域との連携

「ポジGo」の取組等をPTAや学校運営協議会を通じて共有し、学校・家庭・地域の三位一体で生徒を育成する

家庭での取組：家庭学習の状況把握と励ましを行う。１日に１回以上、子どもに「ポジGo」を意識した声かけをする。

地域との連携・小中連携：一言添えた「先手あいさつ」の推進、登下校時の温かい声かけ。総合的な学習の時間や学校行事への参観を通じたフィードバックの実施。

地域行事への参加：親子で短歌を作り提出するなど、地域との関わり、地域のために活動する姿勢を育む。



心理的安全性は、全ての教育活動においての「前提条件」である。
緑ヶ丘中学校は、全員の力で、挑戦できる安心な空間を創り出している。